

# 二千六百年の歩み (二)

## 大 篠 好 邦

神武天皇の御在位は七十六年間にして崩御翌年畝傍山東

北陵に葬り奉る。

第七十六年 (西曆紀元前五百八十五年) パビロン城壁成

る。水道工事に着手。

第八十年 綏靖天皇御即位在位八十三年間にして崩御。

第九十六年 印度に釋尊生る。

第一百年 周の孔子生る。

第一百十二年 始めて山陽道を開く。

第一百十三年 安寧天皇御即位。綏靖天皇を葬り奉る。

安寧天皇御在位三十八年間。

第一百十六年 (西曆紀元前五百四十五年) 小アジア全部キル

スの手に歸す。

第一百十九年 子路生る。

第一百二十一年 (西曆紀元前五百四十年) カリマス始めてコ

リント式建築術を發明す。

第一百二十三年 (西曆紀元前五百三十八年) ペルシャ王キル

ス、パビロニア王國を滅す。翌年孔子學に志す。

第一百二十九年 孔子魯の司職吏となる。釋尊菩提樹下 (伽

耶山) に正覺を成す。

第一百三十四年 (西曆紀元前五百二十七年) アテネの圖書館

成る。

第一百三十七年 周景王の治世大錢及大鐘を鑄る。

第一百三十九年 孔子老子を訪ふと傳へらる。

第一百四十年 (西曆紀元前五百二十一年) エルサレム神殿の

再建。

第四百十六年（西曆紀元前五百十五年）ペルシヤ縣制を布

く。

第四百十七年 顔回生る。

第四百二十年 吳始めて越を伐つ。

第四百一十一年 懿徳天皇御即位、翌年都を大和に遷し曲峽

宮と稱へらる。在位四十三年間。

第四百十八年（西曆紀元前四百九十三年）ラテン諸市ロー

マに服し之と同盟を結ぶ。

第四百十九年 印度耆那教祖マハーギーラ没す。

第四百七十年 孔子蔡に行く。

第四百七十五年 釋尊入滅す。

第四百八十三年 天皇崩御御壽七十七。孔子七十三歳を以て

卒す。翌年敬王殂す。

第四百八十六年 孝明天皇御即位在位八十三年間。

第四百九十二年（西曆紀元前四百六十九年）ソクラテス生る

第四百九十四年（西曆紀元前四百六十七年）アリスチデス死

す。

第四百九十七年（西曆紀元前四百六十四年）スパルタ大地震

第四百九十九年（西曆紀元前四百六十二年）羅馬護民官アル

サ成文法の作製に志す、貴族と平民との階級的對立生

す。

第五百一十一年（西曆紀元前四百六十年）醫術の父コスのヒポ

クラス生る。

第五百一十四年（西曆紀元前四百五十七年）スパルタ、ポイオ

チヤを援けアテネと戦はしむ。

第五百一十九年（西曆紀元前四百五十二年）羅馬の平民、法制

を要求し羅馬法制慣習の調査を爲す。

第五百二十年（西曆紀元前四百五十一年）羅馬法制定の爲貴

族より十名の立法官を任命す、十銅表法典成る。

第五百一十一年（西曆紀元前四百五十年）羅馬立法官十人貴

族平民より選ばる、十銅表更に二銅表を加へ十二銅表

となる。

第五百一十三年（西曆紀元前四百四十八年）羅馬統領ヴァレ

リウス及びボラチウスの法律成る、立法官廢止。

第二百十五年（西曆紀元前四百四十五年）アテネ、スパルタ間ペリクレス和約成る。羅馬カタレイウスの法律により貴族平民の結婚を許す。

第二百二十九年（西曆紀元前四百三十二年）パルメニデス地球の球形を説く。

第二百三十二年（西曆紀元前四百二十九年）プラトウ生る

第二百三十六年（西曆紀元前四百二十五年）ギリシヤのエ

ウポイア半島地震の爲め本土と離る。

第二百三十九年（西曆紀元前四百二十二年）此頃プラトンの數學殊に幾何學及び天文學普く世に行はれ貢獻する所少なからず。

第二百四十年（西曆紀元前四百二十一年）アテネ、スパルタ間の第一期戰終る。

第二百四十一年（西曆紀元前四百二十年）數學者ヒツピアス求積線を發明す。

（前號追補）神武天皇東征の海路は日向の宮崎、都農、美

々津、畑ノ浦を経て佐伯、佐賀關、宇佐、黒崎、蘆屋、府中、神島、高島、大阪に御上陸生駒山麓孔舍衛戰の後、再大阪に出てられ御乘船男里、和田、串本、勝浦、新宮、二本島にて御上陸畝傍山麓檀原に宮居を定めらる。

神武天皇御尊像（竹内久一氏謹作東京美術學校安置）を拜し明治彫刻界三大家の一人高村高雲氏（約五十年前）は左の如く述べて居る「既に中原平定ありて萬民を撫育する允文允武の聖德を表し龍顏の仁は日の如く威は神の如く聖躬の猶ほ弓矢を佩ひて規しく楡風沐雨の難苦を経營し綿綿たる三千五百五十年の今日に至るまで太平の謀猷を殆どされたるはこの御像を拜するもの皆感戴に堪へざる所なり」

二月十一日の歴史Ⅱ明治七年—民選議院設立の建議あり、爾來自由平等の叫びによりて代議政治の萌芽を發し、以て政黨の組織成り自由黨及び改進黨の結黨となり、明治十六年伊藤博文公等は憲法制定の調査に苦心し各國の先例を視察し其の案を見る、明治二十二年紀元節の佳辰に千古不滅の大典憲法を發布せらる。

明治二十三年紀元節陸海軍の殊勳者に賜る金鷄勳章創設せらる。